

北海道循環器病対策推進計画にかかるたたき台についての意見
(ワーキンググループ以外の委員からの意見)

資料 1

	所属・氏名	意見の内容	素案(案)への対応
1	北海道理学療法士会 近藤委員	「心大血管リハビリテーションⅠまたはⅡ」の届出期間数、イコール「回復・維持期の医療を担う」とはなっていないのではないかと考えています。多くの施設は急性期医療のみであり、回復期以降のリハビリテーションの実施率は低いことが予想され、シームレスなリハビリテーション医療を提供するには、なんらかの対策が必要と考えます。	循環器病患者のリハビリテーションについて理解を深め、急性期から回復期、維持期までの病期に応じた関係機関の連携体制の充実や、診療体制の整備を図ることを目的に研修会を開催しております。 今年度は、施設や地域医療の関係者を参集範囲に追加し、回復期以降のリハビリテーションの必要性について理解が広がるよう取組を進めているところであります。
2	NTT 東札幌病院 寺本委員	○ 平成 29 年患者調査では、循環器病の小児期・若年期（0～24 歳）の総患者数（推計値）は約 1,000 人（全国 3 万 1,000 人）であったのに対し、令和 2 年患者調査では、循環器病の小児期・若年期（0～24 歳）の総患者数（推計値）は約 300 人（全国 8,200 人）と、記載されております。先天性心疾患が毎年 12000 人くらいにあり、またそのうち 9000 人ほどが手術を受けているにしても、少し少ない報告かとおもわれますが、いかがでしょうか。 ○ また、学校健診では、要精検とされながらも小児循環器外来に受診しないケースも多くみられます。後天的心疾患も増加しており、学校心臓健診の在り方や、精密健診率の改善に向け、取り組む必要があると思います。 ○ 循環器疾患だけでなく、シームレスな支援として移行期医療センターが担う役割は大きく、更なる連携等、スムーズな移行期医療が進展することを望みます。	○ 正確なデータが不明なため、削除しました。 ○ 学校健診における対応につきましては、教育担当課と情報共有しながら引き続き取り組んで参りたいと思います。

<p>3</p>	<p>全国心臓病の子どもを守る会北海道支部</p> <p>藤田委員</p>	<p><現状・課題></p> <p>○先天性心疾患の小児から移行期についての記載はありますが、成人期以降の成人先天性心疾患とはということやおよその患者数、問題点など書かれていると理解が深まりように思います。</p> <p>データに関しては日本小児循環器学会や日本成人先天性心疾患学会などがお持ちだと思うのですが、インターネットにある文献やデータ使用の可否についてわかりかねます。</p> <p>○北海道における小児循環器および成人先天性心疾患の診療施設と医師の数を具体的に盛り込んでいく</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児循環器専門医修練施設数 2 小児循環器専門医数 <ol style="list-style-type: none"> 1 成人先天性心疾患専門医総合・連携修練施設数 2 成人先天性心疾患専門医数 	<p>○ 日本小児循環器学会における小児期発症心疾患実態調査データの二次利用については、費用負担が生じ、また、継続利用する場合は延長申請も必要であることから利用が難しいと考えております。</p> <p>厚生労働省から出典されております、既存資料の活用を検討していきます。</p> <p>○ 小児循環器および成人先天性心疾患の診療施設数については、日本小児循環器学会及び成人先天性心疾患学会のホームページに掲載されているデータを記載させていただきます。</p>
		<p><主な取組>小児循環器領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎児期・新生児期の心疾患診断率の向上 2 学校での生活習慣病予防に向けての検診と食育の促進 3 学校心臓検診データのデジタル化，データベース作成と循環器病対策への利活用 4 義務教育からの心肺蘇生教育の充実 5 小児循環器慢性患者の自立支援の促進 <p><主な取組>成人先天性心疾患領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人先天性心疾患専門医の総合・連携修練施設数 1以上/人口100万対/県（但し1以上/県），専門医数 1以上/人口100万対/県（但し1以上/県）で，循環器内科専門医 1以上/県による医 	<p>○ 学校での取組につきましては、教育担当課と情報共有し、取組について引き続き検討して参ります。</p> <p>○ 大学病院や子ども総合医療・療育センター、総合周産期医療センター等において、小児高度医療を提供しております。また、子ども総合医療・療育センターでは、循環器病センターを設置し、連携を強化して高度な医療を提供しております。</p> <p>○ 移行期医療につきましては、移行期医療支援センターを設置し、成人診療科へ円滑に移行するた</p>

		<p>療提供体制の構築</p> <p>2 改正難病法と連携して、移行医療支援センターの設置と循環器医師、先天性心疾患に関わる 家族会の会員の参加</p> <p>3 成人先天性心疾患患者の就労支援</p> <p>4 小児期、若年期から配慮が必要な循環器病患者への患者教育への医療、福祉、行政・福祉、教育関係機関の連携</p> <p>5 小児診療科と成人診療科の連携推進</p>	<p>めに必要な支援のあり方を検討することとしております。</p> <p>なお、ご意見については今後の参考とさせていただきます。</p>
4	<p>北海道薬剤師会</p> <p>武隈委員</p>	<p>【心】【脳】共通 資料2 27頁</p> <p>1 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進</p> <p><主な取組> [実施率の向上]</p> <p>この項に、薬局での受診勧奨を手段に加えるのはいかがでしょうか。北海道の事業として、R3年度特定健診受診率向上対策事業 薬局を活用した受診勧奨事業において、薬局における受診勧奨が、未受診者の受診意欲の促進に貢献したとの結果が得られており、特定健診の実施率の向上に貢献可能かと思われます。この提案については、北海道薬剤師会の理事会でも了承を得ております。</p> <p>3項目の「・市町村や医療保険者と連携し」、を「・市町村や医療保険者、薬局と連携し、普及啓発・受診勧奨を行います。」などの文言でもよいかと思えます。</p> <p>ご検討よろしく申し上げます。</p>	<p>○ 薬局を活用した受診勧奨については、道の特定健診受診率向上対策事業において取り組んでおりますが、引き続きあらゆる機会を通じ関係機関と連携しながら啓発してまいりたいと考えておりますので、記載のとおり修正いたしました。</p>
5	<p>日本脳卒中者友の会北海道支部</p> <p>若梅委員</p>	<p>○リハビリテーション等の見直し（改善）</p> <p>○脳卒中のリハビリテーション</p> <p>早期の自立生活を可能にするためのリハビリテーションを実施する。</p>	<p>○ 症状・病期に応じた適切なリハビリテーションを推進につきましては、引き続き取組を推進して参ります。</p>